



教師の仕事はいいものだ！…

校長 仲川 由佳理

夏休みが明けて、いつもの笑顔いっぱいの子どもたちが学校に戻ってきました。少し日焼けした子どもたちの顔を見ると、本当にうれしく「頑張ろう！」という気持ちになります。

さて、今年の夏休みはどのようにお過ごしになりましたか。私は、30数年前に初めて卒業させた教え子数人と会うことができました。初任2年目から5・6年と担任し、授業力はなかったけれど、子どもたちと一緒に喜怒哀楽をぶつけながら楽しく2年間を過ごしてきたことが今でも忘れられません。子どもが怪我をして入院した時は心配で気持ちが落ち込んだ事や、『ジュリアナ・東京』の話題で盛り上がった事。子ども同士のトラブルの際は、「どう思う?」「どうしたらいい?」と問いかけると、必死にみんなで考えた事。本音で語り合いながら、子どもたちとたくさん話をしました。そんな教え子から「〇〇お楽しみ会が楽しかった。まだ、覚えている!」と言われると、当時、子どもたちと一緒に創り上げた時間が存在したのだと、改めて思い出しました。仕事や家庭生活に全力投球している教え子の表情を見て、人生のほんの1、2年間でしたが、当時の子どもたちの心を揺さぶることができたと思うと、『やっぱり教師の仕事はいいものだ!』と改めて実感させてくれた瞬間でした。

一方で、中学で勤務する友人と高校の理事をされる恩師とで、小・中・高の現場の話をして考えさせられました。世の中には自分よりはるかに教え方が上手で、YouTubeなどICTを活用してどこにいても学ぶことができる今日であり、では、学校に求められているのは、何なのかと…。前述した子どもを持つ教え子が、「自分の子どもは、学校に楽しく行っているから、今は安心している。」と話をしていました。「楽しく」「安心」という言葉は、大切なキーワードになるような気がします。

改めて、教師とは、そして学校が果たす役割が問われてきている時代です。夏休み中に本校職員は、児童理解や授業力向上に向けた研修を積み重ねてきました。働き方改革を視野に入れながら、限られた時間の中で業務を成し遂げるために学校運営に全職員で取り組んでいます。「やっぱり教師の仕事はいいものだ!」と、自分たちの仕事に誇りをもち、さつきっ子のために引き続き豊かな教育活動の創造に向けて取り組んでいきたいと思ひます。

